

そこが聞きたい!! 一般質問

一般質問のようすは、インターネット録画配信をしています。また、議員名の横の2次元コードから、該当議員の動画へアクセスできます(パソコンやスマートフォンで視聴できます。閲覧可能期間は1年間です)。

一般質問は、議員が市政全般について、自由なテーマで市長に質問・政策提言を行うもので、市民の声を市政に届けるものです。9月定例会では、17名の議員が一般質問を行いました。ここでは、質問と答弁の一部をご紹介します。なお、質問の内容は、質問した議員が作成しています。【インターネット録画配信もご覧ください】

災害時、市民は防災無線情報に耳を澄ます

高橋ブラクソン久美子(無所属)



- その他のテーマ
- ▶ 少子化対策への市長の考えは
 - ▶ 虐待検証報告書からの示唆は
 - ▶ 狭山市奨学金はどう変わるか

◆**台風9号の豪雨の中での防災無線**
 防災無線での情報を待っていたが、聞こえなかった。いつどのような防災無線を行ったのか。
市民部長 台風9号の防災行政無線からの指示は、13時45分に入間川地区、水富地区、柏原地区、入曽地区に避難準備情報を発令し、防災行政無線やエリアメールなどで広く市民などに周知した。

78,898円であり、制服などの購入額としては、決して安いものではないと認識している。
 このため、制服のワイシャツやブラウスの型を限定しないようにしたり、PTAの協力を得てリュースの制服をバザーなどに提供してもらったりするなど、保護者の経済的な負担の軽減に努めている。



高すぎない?

◆**中学校の制服**
 中学校の制服などの購入費はいくらか。高すぎないか。
学校教育部長 入学時に購入するものとして夏用制服、冬用制服、ジャージー上下、体育着上下、上履きがあり、平均で男子が63,010円、女子が

ドッグランの設置を・防災にLINEの活用

笹本 英輔(創政会)



- その他のテーマ
- ▶ LINEパブリックアカウント取得
 - ▶ 市民からの災害通報手段の整備を
 - ▶ ペット避難所機能のドッグラン

◆**防災情報**
 ①防災情報を市民向けにどのように発信しているか。
 ②情報発信ツールとして、LINEパブリックアカウントの取得をどのように考えているか。
総合政策部長 ①防災行政無線やエリアメールをはじめ、ホームページや公式モバイルサイト、また、メール配信サービス、公式フェイスブックや公式ツイッターを活用している。さらに、インターネットを利用していない方には、テレビ埼玉のデータ放送サービスと狭山ケーブルテレビのテロップを活用している。
 ②幅広い年齢層で利用者が増加しており、情報入手の手段がさらに増えることになるので、パブリックアカウントを取得するようにしたい。

◆**ペットとの生活**
 災害時のペット避難所について、どのように考えているか。
市民部長 地域防災計画に、避難者とともに避難した動物の取り扱いを記載しているが、ペットを受け入れる場所が十分ではない。各避難所で受け入れられるよう、検討する必要がある。



家族同然のパートナーとして

入居者が安心して生活できる市営団地

太田 博希(創造)



- その他のテーマ
- ▶ 生活環境が違う入居者融合策
 - ▶ 新集会所の活用をどう考える
 - ▶ さらに良好な生活環境の整備にむけて

◆**医療福祉や生活支援の体制は**
 医療福祉関連団体とのさらなる連携体制をどう考えているのか。
都市建設部長 支援が必要な高齢者や障害者に、地元の民生委員や地域包括支援センターなどと情報を共有し、連携して支援を行っているが、鶴ノ木団地にも同様の連携を図り、支援を行う。

と考え、具体的な対応は団地の管理組合と協議していく。
 ②鶴ノ木団地は高齢者が多数入居しており、社会福祉協議会などが協議を行っていることは把握している。今後、市の職員も入居者の情報を共有し、必要なサポートができるよう努めていきたい。



29年度完成予定の市営鶴ノ木団地B棟

◆**水害など災害時の対応体制は**
 ①水害への対応について、一階の住民が二階以上に一時避難する体制づくりは。
 ②住民コミュニティに関する市の関わり方やサポート体制は。
都市建設部長 ①入居者は高齢者や障害者が多く、避難所まで距離があり、鶴ノ木団地では必要

高齢者が徘徊しても安心できるまちづくり

矢馳 一郎(創造)



- その他のテーマ
- ▶ 地区防災計画と地域継続計画
 - ▶ 市内中学校への防災部創設
 - ▶ 地域のためのドローンの活用

◆**徘徊模擬訓練や声かけ訓練の実施**
 認知症などを理由に高齢者が行方不明になってしまった場合に、早期発見や適切な対応を身につけるために、地域での訓練が必要なのは。
長寿健康部長 徘徊模擬訓練や声かけの訓練は具体的な実施に至っていない。今後、認知症徘徊者への理解を深めるとともに、地域での支援に向けた意識の高揚を図るため、認知症サポーター養成講座の修了者や、狭山市要援護高齢者等支援ネットワークへの参加団体などの協力を得て、実施を検討していく。

などを、衣類や持ち物に張ることが有効では。
長寿健康部長 国からの身元の判明・保護につながる重層的な取り組み依頼への対応のうち、地域の見守りネットワークはすでに形成されており、アイロンシールや二次元コードなどを活用した取り組みは、可能な限り実施したいと考えている。



入間市の徘徊模擬訓練のようす(入間市提供)

◆**アイロンシールや二次元コードの活用**
 徘徊高齢者の身元の判明につながる連絡先などが記載されたアイロンシールや二次元コード

ここに掲載していない一般質問の質問と答弁の概要は、ホームページでご覧いただけます。ホームページをご覧にならない方には、FAXまたは郵送でお届けしますので、議会事務局にご連絡ください。

04-2953-1111 内線3313